3　農山漁村 × 企業・大学・研究機関

SDGsによって、「ヒト」「モノ」「カネ」「情報」に関するルールが変化しています。社会・環境に配慮した資材など、調達のルールが変わりつつあり、それはオリンピックのようなグローバルスポーツイベントのみならず、通常の企業活動にまで及んでいます。また、CSRとしてではなく、本業の中にSDGsを組み込む企業も出てきています。

産学官連携の取組を推進する際には、行政としても、こうした企業環境の変化を的確に捉え、SDGsに積極的に貢献している農業経営者、企業、研究機関等を応援する姿勢を打ち出すことが重要です。また、SDGsが掲げているような複雑化した社会課題の解決・ゴールに向かっていくためには、関係者が集まり知恵を出し合い、参加者が学習し、参加者相互の学びから新たなアイデアが生まれるオープン・イノベーションの場が必要です。

林地残材×新素材

国土の約７割を占める森林のなかで、日本固有種のスギを活用するため、（国研）森林研究・整備機構森林総合研究所を中心として複数の大学及び民間企業が参画するコンソーシアムが設立されました。これまで品質のコントロールが難しく、安定品質の求められる工業材料化は困難とされてきたリグニンを改質する技術により、中山間地等で世界初の産業を創出する取組が始まっています。

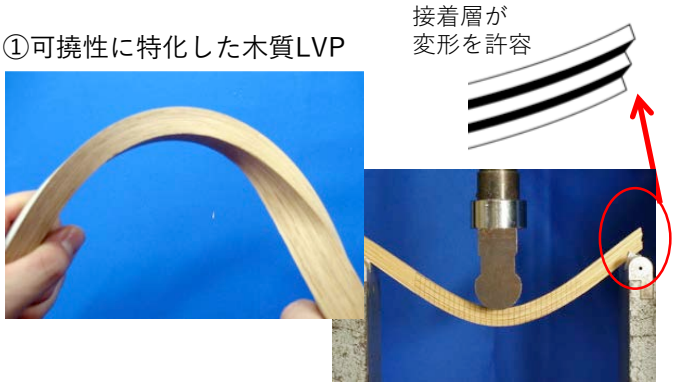
改質リグニンパウダー
（出典：森林総合研究所）

改質リグニンを外装・内装材として搭載した車
（産業技術総合研究所、森林総合研究所、
株式会社 宮城化成、株式会社光岡自動車）

大学発ベンチャー×伝統技術

日本固有種のスギと秋田の伝統木工技術を活用した新市場の創造を目指して、大学発のベンチャー企業「森林資源バイオエコノミー推進機構」が設立され、①木質LVP（Laminated Veneer Panel)や、②土木用CLT(Cross Laminated Timber)の取組が始まっています。

①可撓性に特化した木質LVP



②土木用CLT（直交集成板）

ラッピングにより防腐対策を行ったCLTを、コンクリート床版に代わる建築資材として、橋梁の補修工事に使用。

（出典：4枚全て秋田県立大学木材高度加工研究所）